

事業名	なかとみ青少年自然の里運営費	財務コード (事業)	160102
-----	----------------	---------------	--------

細事業名	管理運営委託費
------	---------

担当部課室	教育委員会 部 社会教育 課 社会教育振興 担当 (内線)	8357
-------	-------------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 H23 年度 ~ 終期 H27 年度
------	-----------------------

実施主体	指定管理者(身延町)
------	------------

事業の目的	誰(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	児童・生徒及びその指導者 家族、関係団体	自然とのふれあいの中での集団生活を通して、自律、協力、友愛などを体験的に学習できている	ふるさとを愛する心豊かな青少年の育成

事業の内容 主に 24年度	<p>1 利用の承認に関する業務</p> <p>2 施設及び設備器具の維持保全に関する業務</p> <p>3 利用者への指導・支援業務、体験普及事業等</p> <p>24年度受入団体数 109団体</p> <p>・活動プログラム(宿泊等利用者に対して提供している体験活動)</p> <p>陶芸 手すき和紙作り 草木染め 七宝焼き 篆刻 手わざ体験 郷土食づくり サイクリング オリエンテーリング グリーンアドベンチャー 絵図ハイク 登山 散策・自然観察 野外炊飯 キャンプファイヤー 軽スポーツ 天体観測</p> <p>・主催事業(体験活動、野外活動を実践するために活動プログラムとは別に企画・実施する事業) (16事業) ()内参加者数</p> <p>親子体験スクール:「ヤマメ釣り」とそばづくり(46人)・「本栖湖一周ハイキング」(19人) 少年少女自然体験教室:「はにわづくり」(27人)・「野外炊飯、勾玉づくり」(54人) 親子ふれあい自然体験教室:「そば打ち・野草天ぷら作り」(45人)・ 「親子キノコ狩りとキノコ飯づくり」(14人)・「ほうとうづくり、枝豆の収穫体験」(13人) ちょっと体験2012~2013:「藍染」(8人)・「スタンドグラス」(14人)・「陶芸」(57人)・ 「しめ縄・ミニ門松づくり」(9人)・「ほうとうづくり・味噌仕込み」(38人)・「燻製・ソーセージづくり」(46人)</p> <p>なかとみ現代工芸美術館共催事業:「陶芸」(26人)</p> <p>従来の青少年施設(八ヶ岳・愛宕山)が大規模に、効率性を重視して運営されているのに対し、当該施設は、地域住民の積極的な参加のもと、ふるさと山梨の伝統文化を学習できることをコンセプトに設置された施設。</p>
---------------------	--

根拠法令等	山梨県立青少年自然の里設置及び管理条例 山梨県立青少年自然の里設置及び管理条例施行規則
-------	---

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	稼働率	42.6%	45.0%	43.5%	45.0%	45.0%	活動指標 目標設定の考え方 過去3年間の実績を参考に設定 事業計画 データの出典等 事業計画書 事業報告書
	主催事業の開催回数	18回	19回	16回	19回	19回	
活動指標達成率 (実績値/目標値)				%			
成果指標	利用者数	8,380人	8,500人	7,494人	8,500人	8,500人	成果指標 目標設定の考え方 過去3年間の利用実績を参考に設定 前年度満足度を参考に設定 データの出典等 事業報告書 モニタリングシート
	利用者満足度	88%	90%	92%	95%	100%	
成果指標達成率 (実績値/目標値)				%			
決算額、予算額	29,148		29,292	29,048	29,924	成果指標によらない成果 利用者数のうち、県内利用者の割合が23年度の51.7%から65.6%へ増加が見られる。	
(千円)							
うち一財額	29,148		29,292	29,048	29,924		
所要時間(直接分)	292 時間		291 時間	291 時間	291 時間		
所要時間(間接分)	時間		時間	時間	時間		
所要時間計	292 時間		291 時間	291 時間	291 時間		
人件費コスト 単位:千円 (@2,050円×所要時間)	599		597	597	597		

これまでの事業の見直し・改善状況

施設の利用者が減少する秋から冬にかけて、主催事業として小学生以上が参加できる講座を開催したり、平成22年度からは青少年教育施設の他3施設(愛宕山少年自然の家・八ヶ岳少年自然の家及びゆずりはら青少年自然の里)との連携によりプログラム交換を行ったり、24年度は冬期のプログラムを考えるなど、改善を図っている。また、職員配置を見直すなど効率的な運営ができるように改善を図っている。

活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)

(1)事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定 H24年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること 稼働率については、目標の96%となり予定どおりの活動量がある。 事業開催回数については、目標に対して84%となり、予定どおりの活動量がある。
	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)、 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)、 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)、 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2)事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定 H24年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記入すること 利用者数については目標に対して88%となり、また成果指標によらない成果として、チラシ配布先の見直しなどにより県内利用者割合の増加が見られることから、意図した成果をほぼあげている。 プログラム相談を丁寧に行ったり、宿泊や体験の際に臨機応変に対応するなど、小規模施設ならではのきめ細かい対応で、利用者満足度調査における満足度は90%超となり、意図した成果をほぼあげている。
	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)、 b: 意図した成果をほぼあげている(80%以上120%未満)、 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)、 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)

見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
有	県立施設と町立施設が一体として管理運営されており、「県立の宿泊施設」と「町立の体験活動施設」の両施設が共存することにより、利用者に宿泊と多様な体験活動を一箇所で提供でき、効率的な運営に大きな効果をもたらしている。しかし、伝統文化学習メニューである和紙工房や陶芸工房の利用者が減少しており、コンセプトやプログラム等の見直しを含めた検討を行なう。	d

・「以外の判断項目」の欄
必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施)
官の役割分担
(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
有	施設全体の利用者が減少し、特に青少年の利用が減少していく中で、当初の設置目的にそぐわない利用実態となっている。 また、県立施設と町立施設が一体として運営されていることが、管理を複雑化している。 平成26年度末までに、県立施設の町への譲渡又は廃止について、身延町と調整を図りながら検討を進める。	d

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向(平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
実施方法等の変更	「県立の宿泊施設」と「町立の体験活動施設」が一体として機能し、管理運営されている当該施設においては、県の施設のみを一方的に見直すことはできず、身延町との調整を図りつつ進めることが必要となる。 平成26年度末までに、町への譲渡又は廃止について検討を進める。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止(施設については「移譲」)」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、「見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。

様式2(指定管理者施設)

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(平成24年度事業分)

1. 施設の概要

施設名	山梨県立なかとみ青少年自然の里	所管課	社会教育課
所在地	南巨摩郡身延町平須306	設置年月日 (改築年月日等)	昭和62年6月
管理方式	指定管理者(身延町、平成18年4月1日～)		
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立青少年自然の里設置及び管理条例		
設置目的	①自然の中で、集団生活を通じて自律、協同などを体験的に学習する場を提供すること。 ②主催事業の実施を通じ、自然の中でふるさとを愛するたくましい青少年を育成する機会を提供すること。		
主な施設内容 (定員等)	宿泊棟: 宿泊室(28人)×1、宿泊室(24人)×3、リーダー室(2人)×4、 食堂(100人)、談話室(15人) キャンプ場: 炊事場、バンガロー2棟、テントサイト13カ所		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用の承認に関する業務 ○ 施設及び設備器具の維持保全に関する業務 ○ 集団生活を体験させる集団宿泊訓練に関する業務 ○ 地域における生活文化の経験学習に関する業務 ○ 野外観察、自然探求その他の自然に親しませる学習活動に関する業務 ○ 野外活動及びレクリエーションに関する業務 ○ その他教育委員会が必要と認める業務 		

2. 類似施設・近隣施設

名称・施設内容・ 利用状況等	(1) 身延町立陶芸工房(定員60名)、和紙工房(定員50人)、体育館(505m ²) (2) 山梨県立ゆずりはら青少年自然の里: H24 利用人数 11,360人
-------------------	---

3. 利用状況

単位: 人、%

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度 (目標値)
利用者数	本館宿泊利用	6,980	6,448	5,702	
	キャンプ場宿泊利用	634	748	530	
	日帰り利用	1,130	1,184	1,262	
	利用者数合計	8,744	8,380	7,494	
	目標値	8,700	8,000	8,500	8,500
	目標値設定の考え方	過去2年の実績が増加傾向にあることから、前年度実績を上回る数値を目標とした	過去実績から、震災・計画停電による4月以降キャンセル分を勘案し調整	利用者が増加傾向にあった22年度程度まで伸ばすことを目標。	過去2年の実績が減少傾向にあることから、過去2年間の平均利用者数を超える事を目標とした。
	対22年度比	100.0%	95.8%	85.7%	
稼働率		51.0%	42.6%	43.5%	

4. 収支状況

単位:円、%

		平成23年度	平成24年度 (計画値)	平成24年度 (実績値)	平成25年度 (計画値)
収入	施設利用料				
	指定管理者委託料	29,148,000	29,292,000	29,292,000	29,048,000
	その他	0	0	0	0
	収入合計(A)	29,148,000	29,292,000	29,292,000	29,048,000
支出	人件費	13,937,029	14,808,000	14,422,776	14,695,000
	県への納付金	0	0	0	0
	管理運営費	14,138,740	14,484,000	14,325,427	14,353,000
	(うち外部委託費)(B)	6,655,619	6,940,000	6,639,793	6,654,000
	支出合計(C)	28,075,769	29,292,000	28,748,203	29,048,000
収支差額(A-C)		1,072,231	0	543,797	0
外部委託比率(B÷C)		23.7%	23.7%	23.1%	22.9%
利用者一人当たりの経費		3,478	3,446	3,909	3,417

5. 利用者満足度

実施方法等	実施時期:平成24年4月～25年3月、実施方法:県立なかとみ青少年自然の里利用団体へのアンケート、回答数:49団体
-------	---

単位: %

調査項目	満足・十分	普通・ どちらでもない	不満足・ 不十分	不明・ わからない
①利用料金	94.0%	0.0%	4.0%	2.0%
②申し込み方法	90.0%	0.0%	8.0%	2.0%
③設備・備品の状況	84.0%	12.0%	0.0%	4.0%
④活動内容	92.0%	2.0%	0.0%	6.0%
⑤施設利用全般の満足度	94.0%	2.0%	0.0%	4.0%
⑥食堂の食事について	66.0%	16.0%	6.0%	12.0%
各項目の平均	86.7%	5.3%	3.0%	5.0%

※調査項目は、施設ごとに適宜変更する。

利用者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場にシャワーがあるとよい。 ・そばがら枕でない枕もある方がよい。 ・道が狭く大型バスが入れない。 ・食事の味付、献立を工夫して欲しい。
利用者の意見への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊棟利用者を優先しながらキャンプ場利用者にシャワー利用を行えるようにした。 ・そばがら枕でない枕を譲り受けることができたので入れ替えを行う予定。 ・H25年度に向けて大型バス駐車場を今までの1/3の距離に確保することができた。 ・食事については安全、安心で利用者に喜ばれるよう安価な食事を提供できるよう業者と協議しながら進めている。新しいメニューについても検討中。

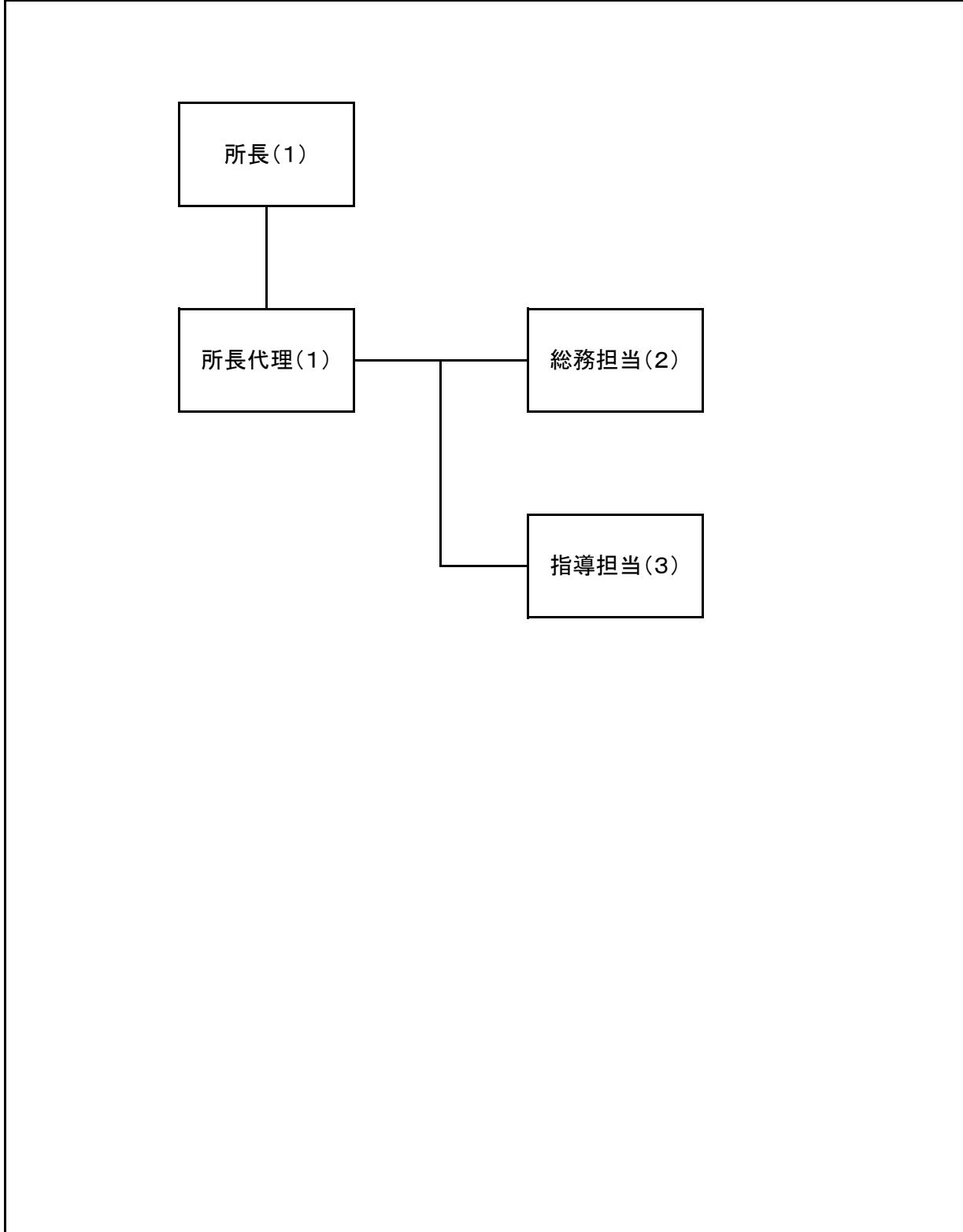
6. 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	施設利用者が安全かつ快適に利用できるように常に点検を行い、必要に応じて修繕等を行った。食堂業務については、アレルギー対応を含め、利用者の要望に可能な限り応じるよう努めた。	業務仕様書、業務計画書どおり適正に実施されている。
運営業務	日常では体験できない自然体験・生活体験・交流体験・創造体験・郷土食体験等を行えるよう、利用者への指導や支援及び食事の提供を行った。	施設立地を有効に活用した各種プログラムを提供しているが、新しいプログラムの開発も必要といえる。主催事業においては、様々な方たちに利用していただくなど好評であり運営については努力を行っている。
自主事業		
利用状況	県外利用者の減少により昨年度の89.4%の利用にとどまった。昨年多かった県外利用者が今年は団体で16、延べ数で1,470人の減となった。逆に県内利用者は、団体で7、延べ数で584人の増となった。延べ数の県内利用者割合は、昨年度の51.7%から65.6%に伸びている。	全体的な利用者数は減ってしまったが、内訳を見ると、県内利用者の利用が増えているなど広報活動の変更(チラシの配布先を見直す等)成果も見られている。
収支状況	光熱費が昨年を大きく上回る結果となってしまった。また、水道水の確保のため急速ろ過池の砂の入れ替えや自動火災警報受信機の異常による増加があったが、概ね計画通り執行することができた。	冬場の暖房により光熱費が昨年を上回ったようだが、全体的には経費節減の努力により概ね計画どおりの支出状況となった。
利用者満足度	施設までのアクセスについて、道路が狭い・大型バスが入らない等の改善を望む声があった。しかし、「施設全般において満足か」の設問では98%が「満足」「やや満足」と回答している。今後も気持ちよく利用頂けるよう、全職員で努力していく。	利用者からの指摘が多い施設までの道路状況については止むをえないが、25年度に一部改善を予定しているとの事であり、他の部分についても、努力を行っている。
運営目標の達成状況	<p>○H24 利用者数目標値 8,500人、実績7,494人</p> <p>○H24 主催事業参加者数目標値 400人、実績405人</p> <p>県外利用者の減により目標の達成はできなかった。大口の利用者の震災後の利用はまだないが、今後も連絡を続け利用に結び付けるようにしていきたい。チラシの配布先や配布方法の変更を行っている成果か、県内利用者は、団体で7、延べ数で584人の増となった。</p>	
施設所管課による総合的な評価及び指導事項	<p>現地確認を行っているが、常に施設内外はよく整備されている。</p> <p>24年度は、広報の活動について変更をおこないその効果もあり前年より県内利用者が増えている。全体的な利用者数は減ってしまっているが、22年度震災以降の利用者層の変化もあり様子を見たい。利用者の安全面については、引き続き注意を払って欲しい。特にアレルギー対策については、対応について施設内で共有しておくこと。</p>	

施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況

避難訓練については、今年度新規の職員もいることから、利用者に影響の無い日を選び実施する。

7. 管理体制(組織図)



今後のあり方等検討シート

	課題と見直しの方向性
<p>県の施設としての必要性</p>	<p>(国、市町村または民間の施設との重複はないか、市町村・民間等への移譲を検討したか、県が設置する個別の理由はあるか、廃止した場合の影響等) 国の「新学習指導要領」では、小中高のそれぞれにおいて「体験活動の充実」が盛り込まれている。また、県教委では、「やまなしの教育振興プラン」に基づき、自然体験活動等を提供する施設の充実を含む「地域全体で取り組む教育の推進」を基本施策としている。さらに、「やまなし子ども・若者育成指針」では、青少年の自立と社会性を育む環境づくりを施策体系に掲げ、青少年教育施設等における活動プログラムの検討・充実などを県が取り組むべき推進事項としている。当該施設は、これらを実現するための施設となっている。</p>
<p>管理方法</p>	<p>(指定管理者制度の導入、業務委託、職員配置の見直し、利用料金の見直し等) 指定管理者制度は、平成18年度から導入しており、町への管理指定は現在2期目となっている。それ以前は、設立された昭和62年から町(旧中富町)に管理委託を行っていた。</p>
<p>利用状況</p>	<p>(利用者の増減理由、利用者増に向けた取組、利用者が少ない施設の根本的な改善策、利用者の意見を取り入れているか等) 年間の利用者数は、平成12年度までは1万人を超えていたが、それ以降は1万人を切り、8千人から9千人ほどとなっている。平成22年3月の東日本大震災以降、平成23、24年度と利用者減となっており、震災により一度利用をやめた団体が、その後も利用を再開していない傾向がある。 利用者増に向けた取り組みとしては、当該施設の傾向として、利用が宿泊学習や合宿のある夏に偏っているため、冬期に、どれだけ利用を増やせるかが課題となっており、秋～冬にかけて様々な主催事業を行うため、同種の施設が連携して冬期プログラムの開発について共同研究を行なうことなどに取り組んでいる。</p>
<p>効率性</p>	<p>(収支の状況・利用者1人当たりの経費の状況は効率的か、業務内容の効率性・経費の効率性から見て、改善の余地はないか等) 当該施設は、設立の経緯から、「ハヶ岳少年自然の家」や「愛宕山少年自然の家」のように大規模で効率的に施設とは区別され、小規模でユニークな施設で、自然、伝統文化、伝統産業等の自由な体験学習ができ、地域振興にも資する施設が望ましいとされた。そのため、効率性が高いとは言えないが、施設のコンセプトからやむを得ない部分がある。</p>
<p>社会環境の変化</p>	<p>(当初目的は達成しているのではないか、事業量は適正か、県民ニーズの変化に対応しているか等) 当該施設のコンセプトは、地域の風土に根ざした伝統文化や伝統産業等の自由な体験学習ができることであり、和紙工房での「手すき和紙づくり体験」や陶芸工房での「陶器づくり体験」が体験学習プログラムに加えられている。しかし、和紙工房及び陶芸工房の利用が減少している。その理由は、学校が行なう宿泊体験活動の日数が短くなっており、以前は二泊三日等で行なうことが多かった小学校等の林間学校等は、近年、規定の授業時間数を確保することが強く求められることとなったため、宿泊活動体験に充てられる時間が減少し、現在は殆ど一泊二日で行なわれることとなった。そのため、体験に長い時間を要する「手すき和紙づくり体験」や「陶器づくり体験」は、短い宿泊体験活動期間の日程に含めることが困難になったことが考えられる。</p>
<p>その他の課題</p>	<p>(老朽化の状況、改築の必要性等) 施設設置から25年が経過し、設備も老朽化している部分があることは否めない。建物内部は、清掃や点検整備に努め、利用者を満足させるに十分な清潔さを保っているが、屋根等は、雨漏り寸前の状態に傷んでしまっているなど、営繕課の現地確認においても、改修の必要性が指摘されている。</p>

なかとみ青少年自然の里利用者集計表

施設利用者数

年度	本館宿泊利用	キャンプ場宿泊利用	日帰り利用	計
4	7,836	1,969	1,457	11,262
5	8,104	1,722	1,123	10,949
6	7,528	1,296	1,115	9,939
7	9,942	1,418	981	12,341
8	9,069	770	918	10,757
9	7,941	1,077	1,077	10,095
11	9,228	509	690	10,427
12	9,512	745	577	10,834
13	8,405	403	1,056	9,864
14	7,664	262	749	8,675
15	6,529	458	1,514	8,501
16	6,515	647	1,128	8,290
17	7,661	346	689	8,696
18	5,777	581	865	7,223
19	6,289	163	1,248	7,700
20	6,635	673	1,223	8,531
21	6,810	626	1,200	8,636
22	6,980	634	1,130	8,744
23	6,448	748	1,184	8,380
24	5,702	530	1,262	7,494

平均	7,585	837	1,074	9,496
----	-------	-----	-------	-------

利用者別施設利用者数

年度	合計	小学生		中学生		高等学校		青少年団体		その他	
		延人数	%	延人数	%	延人数	%	延人数	%	延人数	%
	18	7,223	2,473	34	540	7	56	1	2,501	35	1,653
19	7,700	2,653	34	751	10	221	3	1,966	26	2,109	27
20	8,531	2,581	30	644	8	372	4	3,163	37	1,771	21
21	8,636	2,234	26	672	8	391	5	2,262	26	3,077	36
22	8,744	2,287	26	615	7	368	4	2,624	30	2,850	33
23	8,380	1,771	21	686	8	129	2	2,780	33	3,014	36
24	7,494	1,439	19	640	9	231	3	1,795	24	3,389	45

利用者別施設利用団体数

年度	合計	小学生		中学生		高等学校		青少年団体		その他	
		団体数	%	団体数	%	団体数	%	団体数	%	団体数	%
	18	109	33	30	7	6	1	1	26	24	42
19	110	31	28	8	7	3	3	25	23	43	39
20	118	34	29	7	6	3	3	33	28	41	35
21	121	27	22	9	7	4	3	29	24	52	43
22	124	26	21	9	7	3	2	34	27	52	42
23	117	21	18	7	6	1	1	29	25	59	50
24	108	18	17	6	6	3	3	23	21	58	54

平成24年度 県内・県外 利用者別集計

小学生		中学生		高等学校		青少年団体		その他		合計	
県内	%	県内	%	県内	%	県内	%	県内	%	県内	%
1,439	19	640	9	231	3	1,170	16	1,503	20	4,983	67
0	0	0	0	0	0	625	8	1,886	25	2,511	33
計	%	計	%	計	%	計	%	計	%	計	%
1,439	19	640	9	231	3	1,795	24	3,389	45	7,494	100